

2025（令和7）年度

シラバス

秋田ヘアビューティカレッジ

教科科目	関係法規・制度	履修区分	必修	授業形態	講義
履修学年	第2学年	授業時数	30時間	単位数	1単位
担当教員	須田 宏司（担当課目の実務経験を有する）				
授業概要	美容師国家試験（筆記）出題課目、美容師養成施設必修課目				
授業目的	<p>①美容師の業務に関係する衛生法規・制度及び消費者保護法規・制度について、正しい知識を習得しておかなければならない必要性を理解し、あわせて、公衆衛生を担う美容師の社会的責務、職業倫理について自覚する。</p> <p>②美容の業務に関する規定内容を正確に理解するとともに、衛生法規が、美容業を行う場合の指針として有する意義を把握する。</p>				
到達目標	<p>第1章 社会における法の役割、法と国家の関係、法の種類及び衛生法規について理解する。</p> <p>第2章 国と地方の行政の関係、衛生行政及び保健所について理解する。</p> <p>第3章 美容師法について理解する。</p> <p>第4章 美容師として業を行う際に関係のある代表的な法律を衛生、業の振興、雇用、消費者保護の4つの分野に分類し、その概要を理解する。</p>				
授業計画					
第1学期	<p>第1章 法制度の概要</p> <p>第1節 社会生活における法の役割</p> <p>①人と社会生活 ②法とは何か</p> <p>第2節 法の形式</p> <p>①憲法と日本の法令体系 ②条約 ③法律 ④命令 ⑤自治法規</p> <p>第3節 衛生法規の概要</p> <p>①衛生法規の意義 ②衛生法規の分類と生活衛生法規</p> <p>第4節 理容師法・美容師法と附属法令</p> <p>第2章 衛生行政の概要</p> <p>第1節 衛生行政の意義と歴史</p> <p>①行政とは何か ②衛生行政の意義 ③我が国における衛生行政の歴史</p> <p>第2節 衛生行政の分類と生活衛生行政の内容</p> <p>①衛生行政の分類 ②生活衛生行政</p> <p>第3節 衛生行政を担う行政機関</p> <p>①一般衛生行政の仕組み ②厚生労働省の役割 ③都道府県及び市町村の役割 ④保健所の役割と機構</p>				
第2学期	<p>第3章 理容師法・美容師法</p> <p>第1節 目的</p> <p>第2節 用語の定義</p> <p>①理容・美容 ②理容師・美容師 ③理容所・美容所</p> <p>第3節 人（理容師・美容師）に関する規定</p> <p>①概説 ②養成施設の入所資格 ③養成施設 ④試験 ⑤免許と登録 ⑥理容師・美容師の義</p>				

	<p>務 ⑦業務停止、免許取消及び再免許 ⑧管理理容師・管理美容師</p> <p>第4節 施設（理容所・美容所）に関する規定</p> <p>①概説 ②理容所・美容所の開設 ③開設者が講ずべき衛生措置 ④理容所・美容所以外での業務</p> <p>第5節 立入検査と環境衛生監視員</p> <p>第6節 違反者等に対する行政処分</p> <p>①違反者等に対する行政処分 ②不利益処分を行う場合の手続き ③違法または不当な処分等についての審査請求</p> <p>第7節 罰則</p> <p>①罰則について ②理容師法・美容師法の罰則</p> <p>第4章 関連法規</p> <p>①衛生に関連する法律 ②業の振興に関連する法律 ③雇用に関連する法律 ④消費者保護に関連する法律</p> <p>参考資料 ①理容師法・美容師法の構成 ②理容師法・美容師法の歴史</p>
教科書 教材	教科書 関係法規・制度（公益社団法人日本理容美容教育センター発行）
成績評価 方法・基準	<p>1. 出席時数が、本校規定時数の5分の4以上であること</p> <p>2. 各学期末の筆記試験が、60点以上であること（100点法）</p>

教科科目	衛生管理	履修区分	必修	授業形態	講義
履修学年	第1学年、第2学年	授業時数	90時間	単位数	3単位
担当教員	鳥海 良寛（担当課目の実務経験を有する）				
授業概要	美容師国家試験（筆記）出題課目、美容師養成施設必修課目				
授業目的	<p>①公衆衛生の意義と本質とを明らかにすることによって、美容師が公衆衛生の維持と増進について重大な責務を担わなければならない理由は何かを理解する。特に、環境衛生の意義と目的について、美容師の業務と関連付けながら具体的に理解する。</p> <p>②美容師の業務内容と感染症予防、環境衛生の保持との具体的な関連付けを重視して、美容における衛生措置の重要性について理解する。特に、美容器具などの消毒法は、美容業務の衛生性を担保する上で最も重要な技術であるので、その意義と原理について十分に理解するとともに、その適正な実施方法を身に付けること。</p>				
到達目標	<p>第1編 公衆衛生</p> <p>（ア）公衆衛生の意義について理解するとともに、公衆衛生が日常生活あるいは美容業とどのように結びつくか、公衆衛生の発展向上のために美容師として何をなすべきかを理解する。（イ）公衆衛生の発展の歴史を概観し、公衆衛生の思想がどのように発展してきたかを知る。（ウ）公衆衛生は、对人的な予防医学と対物的な環境衛生とに大別されることを知り、さらに環境衛生が健康で文化的な生活の基盤をなすものであることを理解する。（エ）保健所の機能、組織、業務などについて知り、保健所が地域の保健衛生行政において、中核的存在であること及び美容業と保健所とは密接な関係があることを理解する。</p> <p>第2編 環境衛生</p> <p>（ア）環境衛生の意義と内容を理解するとともに、美容所において特に注意しなければならない点について理解すること。（イ）美容所における環境衛生、特に採光、照明、換気、床などの構造設備、衣服の衛生について理解すること。（ウ）美容所における廃棄物処理、環境保全対策について理解すること。</p> <p>第3編 感染症</p> <p>（ア）美容の業務を行う上で、どのような感染症に注意すべきかを具体的に知るとともに、その予防対策について系統的に理解すること。（イ）美容所における衛生措置、特に消毒の意義について、感染症対策と関連付けて理解すること。</p> <p>第4編 衛生管理技術</p> <p>（ア）美容所における衛生管理、特に消毒の意義と目的について理解すること。（イ）消毒方法の種類、原理、特徴について具体的に理解すること。（ウ）美容器具などの対象物の材質、構造などに応じた適切な消毒方法の選択と適正な実施方法について学ぶこと。（エ）美容所において用いられている代表的な消毒方法について、正しい操作方法及び注意事項を確実に身に付けること。</p>				
授業計画					
	第1学年配當時数 60時間		第2学年配當時数 30時間		

<p>第1学年 第1学期</p>	<p>1編 公衆衛生</p> <p>1章 公衆衛生の概要</p> <p>1節 公衆衛生の意義と課題</p> <p>2節 公衆衛生発展の歴史</p> <p>①欧米の公衆衛生の歩み ②我が国の公衆衛生の歩み ③消毒法の歴史</p> <p>3節 理容師・美容師と公衆衛生</p> <p>①歴史の中の理容師・美容師と公衆衛生 ②公衆衛生と理容師・美容師</p> <p>4節 保健所と理容業・美容業</p> <p>2章 保健</p> <p>1節 保健</p> <p>①母子保健 ②成人・高齢者保健 ③精神保健</p>
<p>第1学年 第2学期</p>	<p>2編 環境衛生</p> <p>1章 環境衛生</p> <p>1節 環境衛生の概要</p> <p>①環境衛生の内容 ②環境衛生の目的と意義 ③環境衛生活動</p> <p>2節 空気環境</p> <p>①空気と健康 ②温熱環境と健康</p> <p>3節 衣服・住居の衛生</p> <p>①衣服の衛生 ②住居の衛生</p> <p>4節 上・下水道と廃棄物</p> <p>①上水道 ②下水道 ③廃棄物</p> <p>5節 衛生害虫とネズミ</p> <p>①衛生害虫 ②ネズミ</p> <p>6節 環境保全</p> <p>①水質汚濁</p> <p>3編 感染症</p> <p>1章 感染症の総論</p> <p>1節 人と感染症</p> <p>①疫病の歴史 ②感染症発見の歴史 ③感染症と法律 ④感染症の分類</p> <p>2節 病原微生物</p> <p>①微生物の種類 ②微生物の形と大きさ ③微生物の構造 ④微生物の増殖と環境の影響</p> <p>3節 感染症の予防</p> <p>①微生物の病原性と人体の感受性 ②汚染、感染及び発病 ③常在細菌叢 ④免疫と予防接種 ⑤感染症発生の要因 ⑥感染症予防の3原則</p> <p>2章 感染症の各論</p> <p>1節 理容業・美容業と感染症</p> <p>2節 主な感染症</p> <p>①空気・飛沫を介して感染する感染症 ②飲食物を介して感染する感染症 ③血液等</p>

<p>第2学年 第1学期</p>	<p>を介して感染する感染症 ④動物・節足動物を介して感染する感染症</p> <p>3節 具体的な対策の例</p> <p>①標準予防策 ②せきのある客への対応 ③病変の皮膚をもつ客への対応 ④嘔吐をした客への対応 ⑤客の血液で汚染された器具によってけがをした場合の対応</p> <p>4編 衛生管理技術</p> <p>1章 消毒法総論</p> <p>1節 消毒とは</p> <p>①病原微生物と非病原微生物 ②消毒の原理</p> <p>2節 消毒の意義</p> <p>①汚染、感染、発病と消毒の意義 ②殺菌、消毒、滅菌、防腐の定義</p> <p>3節 理容・美容の業務と消毒との関係</p> <p>①消毒に関連のある法の規定②消毒を怠った場合の危険性と理容師・美容師の責任</p> <p>4節 消毒法と適用上の注意</p> <p>①消毒法の種類 ②消毒（殺菌）に必要な条件 ③病原微生物の抵抗力 ④消毒薬・消毒薬使用液の使用、保存上の注意</p> <p>2章 消毒法各論</p> <p>1節 理学的消毒法（殺菌法）</p> <p>①紫外線消毒②煮沸消毒③蒸気（大気圧下の蒸気）消毒④その他の理学的消毒法</p> <p>2節 化学的消毒法（殺菌法）</p> <p>①アルコール類による消毒 ②次亜塩素酸ナトリウム（塩素剤）による消毒 ③界面活性剤（逆性石けん、両性界面活性剤）による消毒 ④グルコン酸クロルヘキシジンによる消毒 ⑤その他の消毒薬等</p> <p>3節 すぐれた消毒法とその実施上の注意</p> <p>①すぐれた消毒法の条件 ②消毒を行う際の注意事項</p>
<p>第2学年 第2学期</p>	<p>3章 消毒法実習</p> <p>1節 各種消毒薬</p> <p>①消毒薬の概要 ②器具の使い方 ③常備しておくとい消毒薬と希釈液の濃度 ④消毒薬希釈法</p> <p>2節 理容所・美容所の消毒の実際</p> <p>①理容所・美容所における消毒の原則 ②理容所・美容所の消毒設備 ③理容・美容器具類の消毒法（布片などの用具を含む） ④理容師・美容師の手指の消毒 ⑤その他のものの消毒 ⑥理容所・美容所の消毒の現状</p> <p>3節 理容所・美容所の清潔法の実際</p> <p>①清潔保持と清掃 ②洗剤による清浄法 ③洗い場の構造と清潔保持 ④清掃 ⑤刈り取った毛の処理、ふた付き汚物箱などの消毒 ⑥ハエやカなどの駆除</p> <p>5編 衛生管理の実践例</p> <p>1章 理容所及び美容所における衛生管理要領</p> <p>1節 第1 目的～第4 衛生的取扱い等</p> <p>2節 第5 消毒～第6 自主的管理体制</p>

	2章 理・美容所の自主管理点検表
教科書 教材	教科書 衛生管理（公益社団法人日本理容美容教育センター発行）
成績評価 方法・基準	1. 出席時数が、本校規定時数の5分の4以上であること 2. 各学期末の筆記試験が、60点以上であること（100点法）

教科科目	保健	履修区分	必修	授業形態	講義
履修学年	第1学年、第2学年	授業時数	90時間	単位数	3単位
担当教員	須田 宏司（担当課目の実務経験を有する）				
授業概要	美容師国家試験（筆記）出題課目、美容師養成施設必修課目				
授業目的	<p>①美容技術の基礎となる人体について、特に皮膚及び毛髪などの皮膚付属器官の構造と機能に関する科学的、系統的な知識の習得を目的とする。</p> <p>②美容の業務を安全かつ効果的に行うためには、皮膚、毛髪などに関する正確な科学的知識が不可欠であることを理解する。</p>				
到達目標	<p>第1編 人体の構造及び機能</p> <p>（ア）人体各部の名称並びに頭部、顔部及び頸部の解剖学的特徴について理解する。</p> <p>（イ）美容の施術の際に使う骨格及び筋について種類、構造及び機能について理解する。（ウ）人体（頭部、顔部及び頸部に限る）の骨格、筋の種類、構造、機能について理解する。（エ）人体（頭部、顔部及び頸部に限る）の神経機能の仕組みについて理解する。</p> <p>第2編 皮膚科学</p> <p>1 皮膚及び皮膚付属器官の構造及び機能</p> <p>（ア）皮膚、皮膚付属器官（毛髪、爪、脂腺、汗腺など）の構造について理解する。（イ）皮膚の生理的作用について理解するとともに、これらの作用と美容との関係について学ぶ。（ウ）毛髪、爪の生理的意義と特性について、美容技術との関連に留意しつつ理解する。</p> <p>2 皮膚及び皮膚付属器官の保健衛生</p> <p>（ア）皮膚、皮膚付属器官の状態に影響を与える因子にはどのようなものがあるか知ること。（イ）皮膚、皮膚付属器官を健康に保つための方法について知り、美容の施術を安全かつ効果的に行うために注意すべき事項について理解する。特に、毛髪の保健衛生については、美容技術の基礎であることから、重点をおいて学ぶこと。</p> <p>3 皮膚及び皮膚付属器官の疾患</p> <p>（ア）主な皮膚、皮膚付属器官の疾患の種類、原因、症状について、美容の施術と関連付けながら理解する。（イ）美容で使用する香粧品等によるかぶれ・アレルギーについて、その発生のしくみと予防法との概略を把握し、美容の業務において注意すべき点は何かを学ぶこと。</p>				
授業計画					
第1学年 第1学期	<p>第1学年配当時数 30時間 第2学年配当時数 60時間</p> <p>第1編 人体の構造及び機能</p> <p>第1章 頭部、顔部、頸部の体表解剖学</p> <p>（1）人体各部の名称 （2）頭頸部の体表解剖学</p> <p>第2章 骨格器系</p> <p>（1）骨の種類と構造 （2）骨の連結 （3）骨格器系とそのはたらき</p>				

<p>第1学年 第2学期</p>	<p>第3章 筋系 (1) 筋の種類と特徴 (2) 主な骨格筋とそのはたらき (3) 表情筋と表情運動</p> <p>第4章 神経系 (1) 神経系の成り立ち (2) 中枢神経系とそのはたらき (3) 末梢神経系とそのはたらき</p> <p>第5章 感覚器系 (1) 視覚 (2) 聴覚 (3) 平衡感覚 (4) 味覚 (5) 嗅覚 (6) 皮膚感覚</p> <p>第6章 血液と免疫系 (1) 血液のあらまし (2) 免疫のあらまし (3) アレルギー</p> <p>第7章 循環器系 (1) 心臓のあらまし (2) 血液循環の仕組み (3) 血液の循環経路 (4) リンパ管系の仕組みとはたらき</p>
<p>第1学年 第3学期</p>	<p>第8章 呼吸器系 (1) 呼吸器系のあらまし (2) 気道 (3) 肺の仕組みとガス交換 (4) 呼吸運動</p> <p>第9章 消化器系 (1) 消化器系のあらまし (2) 消化管の仕組み (3) 消化管のはたらき (4) 消化管と物質代謝</p>
<p>第2学年 第1学期</p> <p>第2学年 第2学期</p>	<p>第2編 皮膚科学</p> <p>第1章 皮膚の構造 (1) 皮膚の表面 (2) 皮膚の断面 (3) 表皮 (4) 表皮と真皮の境 (5) 真皮 (6) 皮下組織と皮下脂肪 (7) 皮膚の部位差</p> <p>第2章 皮膚付属器官の構造 (1) 毛 (2) 脂腺(皮脂腺) (3) 汗腺 (4) 爪</p> <p>第3章 皮膚の循環器系と神経系 (1) 皮膚の血管 (2) 皮膚のリンパ管 (3) 皮膚の神経</p> <p>第4章 皮膚と皮膚付属器官の生理機能 (1) 対外保護作用 (2) 体温調節作用 (3) 知覚作用と皮膚反射 (4) 分泌排泄作用 (5) 呼吸作用 (6) 吸収作用 (7) 貯蔵作用 (8) 免疫・解毒・排除作用 (9) 再生作用 (10) 毛のはたらき (11) 爪のはたらき</p> <p>第5章 皮膚と皮膚付属器官の保健 (1) 皮膚と全身状態 (2) 皮膚と精神 (3) 皮膚と栄養 (4) 皮膚と嗜好品 (5) 皮膚と体内病変 (6) 皮膚の水分と脂の状態 (7) 皮膚・付属器官とホルモン (8) 皮膚の保護と手入れ (9) 毛の保護と手入れ (10) 爪の保護と手入れ (11) 子どものおしゃれによる皮膚トラブル</p> <p>第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患 (1) 皮膚の異常と病態 (2) 湿疹・皮膚炎 (3) 蕁麻疹 (4) 薬疹 (5) 口唇の疾患 (6) 温熱・寒冷による皮膚障害 (7) 角化異常による皮膚疾患 (8)</p>

	色素異常による皮膚疾患 (9) 血管腫 (アカアザ) (10) 脂腺母斑 (11) 下肢静脈瘤 (12) 分泌異常による皮膚疾患 (13) 化膿菌による皮膚疾患 (14) ウイルスによる皮膚疾患 (15) 真菌による皮膚疾患 (16) 衛生害虫による皮膚疾患 (17) 感染症の皮膚疾患の予防 (18) 毛と爪の疾患 (19) 皮膚の腫瘍
教科書 教材	教科書 保健 (公益社団法人日本理容美容教育センター発行)
成績評価 方法・基準	1. 出席時数が、本校規定時数の5分の4以上であること 2. 各学期末の筆記試験が、60点以上であること (100点法)

教科科目	化粧品化学	履修区分	必修	授業形態	講義
履修学年	第1学年、第2学年	授業時数	60時間	単位数	2単位
担当教員	佐藤 存				
授業概要	美容師国家試験（筆記）出題科目、美容師養成施設必修科目				
授業目的	<p>①化粧品は、美容技術を行う上で欠くことのできないものである反面、その使用方法を誤れば重大な健康被害を起こすおそれがあるものであることから、その化学的な性質を理解するとともに、これを正しく使用するためには正確な知識と適正な技術とを身に付けることが重要であることを認識する。</p> <p>②美容の業務を安全かつ効果的に行うためには、化粧品の正確な科学的知識と合理的な取扱方法を習熟し、あわせて、化粧品による危害を防止するための使用上の注意を学ぶ。</p>				
到達目標	<p>第1編 化粧品総論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・化粧品を総合的に把握する。 ・化粧品の有効性と安全性を確保するための国による規制やメーカーによる対応などを把握する。 ・化粧品の成分と役割を理解する。 <p>第2編 化粧品各論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スキンケア製品、メイクアップ製品、ヘアケア、ヘアメイクアップ及びスカルプケア製品について理解する。 				
授業計画					
第1学年 第1学期	<p>第1学年配当時数 30時間 第2学年配当時数 30時間</p> <p>第1編 化粧品総論</p> <p>第1章 化粧品総論</p> <p>1節 化粧品とは</p> <p>1 身の回りの化粧品、2 理容・美容の技術と化粧品</p> <p>2節 化粧品と造形</p> <p>1 形状・形態・デザインの変更、2 色味の変更</p> <p>3節 化粧品の効果と使用プロセス</p> <p>第2章 化粧品を使用する際に気をつけるべきこと</p> <p>1節 化粧品の使用による症状</p> <p>1 化粧品はトラブルを起こすもの、2 化学物質であるということ、3 工業製品であるということ</p> <p>2節 化粧品の定義と法規制</p> <p>1 化粧品とは、2 医薬部外品と化粧品の定義、3 化粧品の法規制の変遷</p> <p>3節 化粧品の安全性と安定性</p> <p>1 化粧品の安全性、2 化粧品の安定性</p> <p>第3章 化粧品の成り立ち</p> <p>1節 化粧品の成り立ち</p>				

<p>第1学年 第2学期</p>	<p>1 香粧品の種類と機能、2 剤形と処方 2節 水と親水性溶媒 1 物質と溶液、2 水、3 アルコール 3節 油性原料 1 油脂、2 ロウ類、3 炭化水素、4 その他の油性原料、5 油性原料の機能 4節 界面活性剤 1 界面活性剤の基本的性質、2 界面活性剤の種類、3 界面活性剤の香粧品への応用 5節 高分子化合物 1 高分子化合物の種類と特性、2 高分子化合物の香粧品への応用 6節 色材 1 色材と香粧品、2 発色、3 無機顔料、4 有機合成色素（タール色素）、 5 光輝性顔料（パール顔料）、6 天然色素 7節 香料 1 香料と香粧品、2 香料の種類、3 調合香料 8節 製品を安定させる配合原料 1 防腐剤・殺菌剤、2 酸化防止剤、3 金属イオン封鎖剤、4 緩衝液 9節 その他の機能性配合原料 1 保湿剤（湿潤剤）、2 紫外線吸収剤、3 収れん剤、4 ビタミンなど 10節 雑貨原料 1 合成樹脂、2 接着剤、3 塗料</p>
<p>第2学年 第1学期</p>	<p>第2編 香粧品各論 第1章 スキンケア製品 1節 香粧品の効果と使用プロセス 1 香粧品の作用と効果、2 スキンケア製品の役割 2節 クレンジング用香粧品 1 汚れの除去、2 クレンジング用香粧品の種類とその性質 3節 コンディショニング用香粧品 1 コンディショニング用香粧品の作用、2 コンディショニング用香粧品、 3 クリーム・乳液の皮膚への作用、4 クリーム、5 乳液 4節 トリートメント用香粧品 1 トリートメント、2 機能性化粧水と化粧液、3 サンケア製品、4 美白用 香粧品、5 シェービング用香粧品、6 ニキビ用香粧品、7 打粉（ベビーパウ ダー）類、8 パック剤 第2章 メイクアップ製品 1節 メイクアップ製品の種類と剤形 1 メイクアップ製品の基剤・剤形</p>

<p>第2学年 第2学期</p>	<p>2節 ベースメイクアップ化粧品 1 おしろい（白粉）類、2 ファンデーション類</p> <p>3節 ポイントメイクアップ化粧品 1 紅類</p> <p>4節 メイクアップ製品 1 アイメイクアップ化粧品</p> <p>5節 まつ毛ケア製品 1 まつ毛ケア製品</p> <p>6節 ネイルメイクアップ製品 1 マニキュア製品、2 アーティフィシャルネイル（人工爪）</p> <p>7節 ネイルケア製品 1 エナメルのリムーバー</p> <p>第3章 ヘアケア、ヘアメイクアップ及びスカルプケア製品</p> <p>1節 ヘアクレンジング用化粧品 1 シャンプー料</p> <p>2節 ヘアコンディショニング用化粧品 1 ヘアリンズ料、2 ヘアトリートメント料</p> <p>3節 ヘアスタイリング料 1 ヘアスタイリング料の機能、2 油性ヘアスタイリング料、3 液状ヘアスタイリング料、4 高分子物質を用いたヘアスタイリング料</p> <p>4節 パーマ剤 1 パーマの原理、2 パーマ剤の分類、3 パーマ剤の使用上の注意、4 化粧品のパーマ（洗い流すヘアセット料、カーリング料）</p> <p>5節 ヘアカラー製品 1 ヘアカラー製品の種類と染毛メカニズム、2 染毛料、3 脱色剤、脱染剤、4 永久染毛剤、5 ヘアカラー製品の使用上の注意、6 その他のヘアカラー製品</p> <p>6節 スカルプケア製品 1 脱毛の予防と毛の成長促進、2 スカルプケア製品、3 スカルプトリートメント製品</p>
<p>教科書 教材</p>	<p>教科書 化粧品化学（公益社団法人日本理容美容教育センター発行）</p>
<p>成績評価 方法・基準</p>	<p>1. 出席時数が、本校規定時数の5分の4以上であること 2. 各学期末の筆記試験が、60点以上であること（100点法）</p>

教科科目	文化論	履修区分	必修	授業形態	講義
履修学年	第1学年、第2学年	授業時数	60時間	単位数	2単位
担当教員	筒井 義明（担当課目の実務経験を有する）				
授業概要	美容師国家試験（筆記）出題課目、美容師養成施設必修課目				
授業目的	<p>①美容業の使命の一つが、より優れた人間美の創造、実現にあることをよく認識し、この使命達成のために必要な美的感覚を身に付け、これを洗練し、芸術的な表現力と鑑賞力とを養う。</p> <p>②美容の業務を全うするためには、確かな技術力を身に付けるとともに、豊かな感性に裏打ちされた優れた表現力を養うことが必要であることを自覚する。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 美容の文化史を学び理解する。 ● ファッションの文化史を日本と西洋に分類し理解する。 ● 和装・洋装の礼装について理解する。 				
授業計画					
第1学年	<p>第1学年配當時数 30時間 第2学年配當時数 30時間</p> <p>第1章 総論 第1節 総論</p> <p>第2章 日本の理容業・美容業の歴史 第1節 理容業・美容業の登場 第2節 江戸時代の理容業・美容業 第3節 近代の理容業・美容業 第4節 現代の理容業・美容業 日本の理容業・美容業の歴史年表</p> <p>第3章 ファッション文化史 日本編 第1節 縄文・弥生・古墳時代 第2節 古代（飛鳥・奈良・平安時代） 第3節 中世（平安時代末期・鎌倉・室町・戦国時代） 第4節 近世（戦国時代末期・安土桃山時代） 第5節 近世（江戸時代） 第6節 近代（明治時代） 第7節 近代（大正時代） 第8節 近代（昭和20年まで） 第9節 現代（1945年～1950年代） 第10節 現代（1960年代～1970年代） 第11節 現代（1980年代～1990年代） 第12節 現代（2000年代～2010年代）</p>				

第2学年	<p>第4章 ファッション文化史 西洋編</p> <p>第1節 古代エジプト</p> <p>第2節 古代ギリシア・ローマ</p> <p>第3節 古代ゲルマン</p> <p>第4節 中世ヨーロッパ</p> <p>第5節 近世（16世紀）</p> <p>第6節 近世（17世紀）</p> <p>第7節 近世（18世紀）</p> <p>第8節 近代（18世紀末～19世紀初め）</p> <p>第9節 近代（19世紀）</p> <p>第10節 現代（1910年代～1920年代）</p> <p>第11節 現代（1930年代～1940年代前半）</p> <p>第12節 現代（1940年代後半～1950年代）</p> <p>第13節 現代（1960年代）</p> <p>第14節 現代（1970年代）</p> <p>第15節 現代（1980年代）</p> <p>第16節 現代（1990年代～2010年）</p> <p>第5章 礼装の種類</p> <p>第1節 和装の礼装</p> <p>第2節 洋装の礼装</p>
教科書 教材	教科書 文化論（公益社団法人日本理容美容教育センター発行）
成績評価 方法・基準	<p>1. 出席時数が、本校規定時数の5分の4以上であること</p> <p>2. 各学期末の筆記試験が、60点以上であること（100点法）</p>

教科科目	美容技術理論	履修区分	必修	授業形態	講義
履修学年	第1学年、第2学年	授業時数	150時間	単位数	5単位
担当教員	小田嶋 美佐子（担当課目の実務経験を有する） 佐藤 理恵（担当課目の実務経験を有する） 大高 美怜（担当課目の実務経験を有する） 岩佐 徳子（担当課目の実務経験を有する）				
授業概要	美容師国家試験（筆記）出題科目、美容師養成施設必修科目				
授業目的	<p>①美容技術についての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣とを養い、工夫と創造の能力とを身に付ける。</p> <p>②美容の業務を安全かつ効果的に行うため、美容器具の正確な科学的知識と合理的思考に裏付けされた正しい取扱いの方法と美容の基礎的技術とを作業の実際に即して習得する。あわせて、美容器具による危害を防止するための使用上の注意を学ぶ。</p> <p>③優れた美容技術は、経験によってだけ得られるものではなく、科学的合理的な方法によって把握されなければならないことを理解する。</p>				
授業計画					
	<p>第1学年配當時数 90時間 第2学年配當時数 60時間</p> <p>美容技術理論1</p> <p>序章 美容技術理論を学ぶにあたって</p> <p>1 美容理論と美容技術</p> <p>2 美容技術における作業姿勢</p> <p>3 美容技術に必要な人体各部の名称</p> <p>1章 美容用具</p> <p>1 美容技術における用具</p> <p>2 コーム</p> <p>3 ブラシ</p> <p>4 シザーズ</p> <p>5 レザー</p> <p>6 ピン類、ヘアクリップ</p> <p>7 ロッド</p> <p>8 ローラー</p> <p>9 ヘアアイロン</p> <p>10 ヘアドライヤー</p> <p>11 ヘアスチーマー</p> <p>12 遠赤外線機</p> <p>2章 シャンプーイング</p> <p>1 シャンプーイング総論</p> <p>2 サイドシャンプー</p>				

	3	バックシャンプー
	4	リンス・コンディショナー・トリートメント
	5	スカルプトリートメント
	6	ヘッドスパ
	3章	ヘアデザイン
	1	美容とデザイン
	4章	ヘアカッティング
	1	ヘアカッティングとは
	2	シザーズとレザーの扱い方
	3	美容刃物
	4	ヘアカッティングの正しい姿勢
	5	ブロッキング
	6	ヘアカッティングの基礎理論
	7	ベーシックなカット技法
	8	シザーズによるカット技法
	9	レザーによるカット技法
	5章	パーマメントウエービング
	1	パーマメントウエーブの歴史と現在
	2	パーマメントウエーブの理論
	3	パーマ剤の分類
	4	パーマ剤に関する注意事項
	5	パーマメントウエーブ技術
	6	縮毛矯正（高温整髪用アイロン使用）
	6章	ヘアセッティング
	1	ヘアセッティングとは
	2	ヘアパーティング
	3	ヘアシェーピング
	4	ヘアカーリング
	5	ヘアウエービング
	6	ローラーカーリング
	7	ブロードライ
	8	アイロンセッティング
	9	バックコーミング
	10	アップスタイル
	11	ウィッグとヘアピース
	12	ヘアセッティングの応用
	7章	ヘアカラーリング
	1	ヘアカラーリング概論
	2	ヘアカラーの種類

- 3 ヘアカラーのタイプ別特徴
- 4 染毛のメカニズム
- 5 色の基本
- 6 毛髪のレベルとアンダートーン
- 7 パッチテスト（皮膚貼布試験）
- 8 染毛剤使用時の注意事項
- 9 ヘアカラーリングの道具
- 10 酸化染毛剤（アルカリ性タイプカラー）の技術手順
- 11 酸性染毛料の技術手順

参考資料

- シャンプー剤の構成成分
- ヘアトリートメント剤の構成成分
- 医薬部外品と化粧品
- さまざまなパーマシステム

美容技術理論2

8章 エステティック

- 1 エステティック概論
- 2 皮膚の生理と構造
- 3 カウンセリング
- 4 美容におけるマッサージ理論
- 5 フェイシャルケア技術
- 6 フェイシャル及びデコルテマッサージ
- 7 フェイシャルパック
- 8 ボディケア技術
- 9 ボディマッサージ

9章 ネイル技術

- 1 ネイル技術概論
- 2 ネイル技術の種類
- 3 爪の構造と機能
- 4 爪のカット形状
- 5 ネイル技術と公衆衛生
- 6 カウンセリング
- 7 ネイルケア
- 8 アーティフィシアルネイル
- 9 手と足のマッサージ

10章 メイクアップ

- 1 メイクアップ概論
- 2 皮膚の生理と構造

- 3 フェイスプロポーション
- 4 色彩について
- 5 パーソナルカラー
- 6 用具の種類と消毒方法
- 7 メイクアップ
- 8 ブライダルメイクアップ
- 9 肌質別修整メイクアップ一覧表
- 10 まつ毛エクステンション

1 1 章 日本髪

- 1 日本髪の由来
- 2 日本髪の各部の名称
- 3 日本髪の種類と特徴
- 4 日本髪と調和
- 5 日本髪の装飾品
- 6 日本髪の結髪道具
- 7 日本髪の結髪技術
- 8 日本髪の手入れ
- 9 かつら

1 2 章 着付けの理論と技術

- 1 着付けの目的
- 2 礼装
- 3 着物と季節
- 4 着物のいろいろ
- 5 帯
- 6 小物
- 7 着物各部の名称
- 8 着物のたたみ方
- 9 着付けの一般的要領
- 10 留袖着付け技術
- 11 振袖着付け技術
- 12 帯締め、帯揚げの結び方
- 13 男子礼装羽織、袴着付け技術
- 14 羽織のひもの結び方
- 15 女子袴着付け技術
- 16 婚礼着付けの際の注意事項
- 17 和装花嫁
- 18 洋装花嫁（ウエディングドレスの知識）

参考資料

ドレスコードの技術

	<p>和装生地の知識</p> <p>季節と生地・仕立て</p> <p>和服における礼装</p> <p>TPO別女子和装基本ルール</p> <p>TPO別男子和装基本ルール</p>
教科書 教材	<p>教科書 美容技術理論1（公益社団法人日本理容美容教育センター発行）</p> <p>教科書 美容技術理論2（公益社団法人日本理容美容教育センター発行）</p>
成績評価 方法・基準	<p>1. 出席時数が、本校規定時数の5分の4以上であること</p> <p>2. 各学期末の筆記試験が、60点以上であること（100点法）</p> <p>1年次の筆記試験について 美容技術理論1と美容技術理論2に分けて筆記試験を実施する（成績は美容技術理論1と美容技術理論2の平均とする）。</p>

教科課目	運営管理	履修区分	必修	授業形態	講義
履修学年	第2学年	授業時数	30時間	単位数	1単位
担当教員	今野 悦子				
授業概要	美容師国家試験（筆記）出題課目、美容師養成施設必修課目				
授業目的	<p>①経営管理及び労務管理の基本的事項を学習することによって、美容業における運営管理手法の重要性を認識し、美容所の運営に役立たせること。</p> <p>②美容業において、適切な接客態度がいかに重要であるかを自覚するとともに、顧客対応の基本を学び、実践する能力を身に着けること。</p>				
到達目標	<p>①経営者の考え方や経営者が果たす責任・役割を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人を雇うことの責任や働くうえで求められることについて理解する。 ・顧客を満足させるサービスとは何か、それを実現する知識や方法を学ぶ。 				
授業計画					
第1学期	<p>第3編 顧客のために</p> <p>第1章 サービス・デザイン</p> <p>第2章 サービス・マーケティング</p> <p>第3章 サービスにおける人の役割</p>				
第2学期	<p>第1編 経営者の視点</p> <p>第1章 経営とは・経営者とは</p> <p>第2章 理容業・美容業の経営について</p> <p>第3章 資金の管理</p> <p>第2編 人という資源 従業員としての視点</p> <p>第1章 人という資源</p> <p>第2章 従業員としての視点から</p> <p>第3章 健康・安全な職場環境の実現</p>				
教科書 教材	教科書 運営管理（公益社団法人日本理容美容教育センター発行）				
成績評価 方法・基準	<p>1. 出席時数が、本校規定時数の5分の4以上であること</p> <p>2. 各学期末の筆記試験が、60点以上であること（100点法）</p>				

教科科目	美容実習	履修区分	必修	授業形態	実習
履修学年	第1学年、第2学年	授業時数	900時間	単位数	30単位
担当教員	小田嶋 美佐子（担当課目の実務経験を有する） 佐藤 理恵（担当課目の実務経験を有する） 大高 美怜（担当課目の実務経験を有する） 岩佐 徳子（担当課目の実務経験を有する）				
授業概要	美容師国家試験（実技）出題科目を含む、美容師養成施設必修科目				
授業目的	<p>①美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため、基本的操作を確実に身に付け、これらの基本的操作を適宜組み合わせて完成させる技術を習得する。</p> <p>②美容所における衛生管理の重要性を認識し、器具の消毒などの適切な実施方法を身に付ける。</p> <p>③個々のお客さまの要望に応じた美容技術を確実に提供できるよう総合的な技術の基礎を身に付ける。</p>				
授業計画					
	<p>第1学年配当時数 360時間 第2学年配当時数 540時間</p> <p>1. シャンプーイング</p> <p>1 クロス掛け</p> <p>2 ブラッシング</p> <p>3 すすぎ（サイドシャンプー）</p> <p>4 シャンプーイング（サイドシャンプー）</p> <p>5 リンス（サイドシャンプー）</p> <p>6 タオルドライとターバン（サイドシャンプー）</p> <p>7 すすぎ（バックシャンプー）</p> <p>8 シャンプーイング（バックシャンプー）</p> <p>9 リンス（バックシャンプー）</p> <p>10 タオルドライとターバン（バックシャンプー）</p> <p>11 トリートメント</p> <p>2. ヘアカットイング</p> <p>1 ワンレングスカット</p> <p>2 グラデーションカット</p> <p>3 レイヤーカット</p> <p>4 セイムレングスカット</p> <p>5 レザーカット</p> <p>3. パーマネントウエービング</p> <p>1 ブロッキング</p>				

- 2 ワインディング
- 3 ワインディングのバリエーション
- 4 ワインディングのバリエーション (応用)

4. ヘアセッティング

- 1 ヘアカーリング
- 2 ヘアウエービング
- 3 ローラーカーリング
- 4 ブロードライスタイリング
- 5 アイロンセッティング
- 6 アップスタイル

5. ヘアカラーリング

- 1 酸化染毛剤 (アルカリ性タイプカラー)
- 2 酸性染毛料 (酸性カラー)
- 3 ヘアブリーチ (脱色) 技術の一例
- 4 ヘアブリーチ (脱色) 技術の応用

6. エステティック

- 1 エステティック備品類
- 2 フェイシャル及びデコルテマッサージの一例
- 3 背中のマッサージ
- 4 フェイシャルパックとマスク

7. ネイル技術

- 1 ネイルケア
- 2 アーティフィシャルネイル
- 3 ネイルアート
- 4 手と足のマッサージ

8. メイクアップ

- 1 スキンケア
- 2 ベースメイクアップ
- 3 アイブロウメイクアップ
- 4 アイメイクアップ
- 5 リップメイクアップ
- 6 まつ毛エクステンション

9. 着付け技術

	1 留袖着付け技術 2 振袖着付け技術 3 男子礼装羽織、袴着付け技術 4 女子袴着付け技術 5 打掛着付け技術 6 伝統的な花嫁化粧 参考資料 タオル補整
	実務実習（校外） 実務実習先の選定 実務実習の心得（事前指導） 実務実習先訪問（実習前オリエンテーション） 実務実習 グループワークまたはレポート
教科書 教材	教科書 美容実習 1（公益社団法人日本理容美容教育センター発行） 教科書 美容実習 2（公益社団法人日本理容美容教育センター発行） 教 材 美容実習教材一式
成績評価 方法・基準	1. 出席時数が、本校規定時数の5分の4以上であること 2. 各学期末の実技試験が、60点以上であること（100点法）

教科科目	英語	履修区分	必修	授業形態	講義
履修学年	第1学年	授業時数	30時間	単位数	1単位
担当教員	JACQUES HENRI JOSUE (担当課目の実務経験を有する)				
授業概要	美容師養成施設選択課目、一般教養課目群				
授業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・英語などの外国語について、基礎的会話能力を身に付け、語学の学習を通じて外国の文化、生活習慣などに関する理解を深める。 ・国際的な美容師を目指すために、外国語として英語を学び、美容の仕事のために使う国際英語を身に付ける。 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ①コミュニケーション・ツールとして英語を活用できる。 ②お客様としてヘアサロンに訪れた外国人に、サロンワークで実践できる英語を身に付ける。 				
授業計画					
1	オリエンテーション				
2～3	UNIT 1 自分について話そう “Let me introduce myself.”				
4～5	UNIT 2 あいさつ “Nice to meet you,too!”				
6～7	UNIT 3 お客様を迎える “Welcome to Sunny’s Hair Salon.”				
8～9	UNIT 4 電話での接客 “Thank you for calling.”				
10～11	UNIT 5 コンサルテーション “Would you like a new hairstyle?”				
12～13	UNIT 6 シャンプー&トリートメント “Is the temperature all right?”				
14～15	UNIT 7 ヘアカット “Can I cut about two inches off?”				
16～17	UNIT 8 パーマ “Have you had a perm before?”				
18～19	UNIT 9 ヘアカラー “How would you like it colored?”				
20～21	UNIT 10 仕上げ “I hope you like it.”				
22～23	UNIT 11 お会計 “Here’s your new member’s card.”				
24～25	UNIT 12 クレーム対応 “I’m sorry for the inconvenience.”				
26～27	UNIT 13 海外研修 “It’s an inspiring experience!”				
28～30	Extra Scenes サロンの場面から Scene 1 メイクアップ Makeup Scene 2 ネイルケア Nail Care Scene 3 シェービングと衛生 Shaving & Sanitation Scene 4 和装着付と写真撮影 Japanese Kimono Dressing & Photo Shooting				
	Glossary for Hairstylists 理容師・美容師のための「和英 表現集」				
教科書 教材	教科書 外国語 (公益社団法人日本理容美容教育センター発行)				
成績評価 方法・基準	1. 出席時数が、本校規定時数の5分の4以上であること 2. 各学期末の筆記試験が、60点以上であること (100点法)				

教科科目	社会福祉	履修区分	必修	授業形態	講義
履修学年	第1学年	授業時数	30時間	単位数	1単位
担当教員	今野 悦子				
授業概要	美容師養成施設選択課目、一般教養課目群				
授業目的	<p>①私たちの一生の間において、就職や結婚、出産や育児などを経験をするとともに、予期せぬ病気やけが、転職や失業、また、高齢になって収入がなくなったり、介護が必要になったりとさまざまな生活上の困難に直面したときに、そのような困難を緩和・軽減し、私たちが安心して安定した生活を送ることができるようにするための社会的な仕組みである社会保障に関する基礎的な知識を身につける。</p> <p>②高齢者や障がい者をはじめとして誰にでもやさしい福祉社会に貢献できる。</p> <p>③人間は誰しも、歳をとって体が不自由になっても、住み慣れた場所で家族や近所の方々に囲まれて、楽しく自分らしく人生を送りたいと願っており、美容師が従事する整容という仕事が、「誰もが自分らしく生きること」に貢献できる有意義な職業であるという自負をもつ。</p>				
到達目標	<p>①「生活水準の低下を防ぐ所得補償」、「傷病の治療と健康の維持・回復を目的とする医療保障」、「高齢者・障がい者及び母子家庭など生活上のハンディキャップをもつ人々に対し個別のサービスを提供する社会福祉」など、社会保障の3分野を学び理解する。</p> <p>②児童の養育、障がい者のリハビリや職業訓練、高齢者・障がい者に対する介護など、さまざまな個別の生活ニーズに対して、在宅や施設において専門職員によるサービスを受けることができる社会福祉の制度について学習する。</p> <p>③わが国は未曾有の少子高齢人口減少社会を迎えており、美容業も競争にさらされ厳しい環境に直面しているが、社会福祉を学ぶことで高齢者や障がい者の方々の心身の特徴を知り、適切な対応ができる技術を身につけて、地域の方々から支持される美容師を目指す。</p>				
授業計画					
第1学期	<p>第1章 現代社会と社会福祉</p> <p>1 私たちと生活問題</p> <p>2 社会経済環境の変化</p> <p>3 私たちの暮らしを支える社会福祉</p> <p>第2章 医療保障</p> <p>1 医療保障制度の概要</p> <p>2 医療保険の仕組み</p> <p>3 公費負担医療</p> <p>第3章 所得保障</p> <p>1 所得保障の概要</p> <p>2 公的年金</p> <p>3 労働保険</p>				
第2学期	4 公的扶助				

<p>第3学期</p> <p>福祉美容 課目で実 施する</p>	<p>5 社会手当</p> <p>第4章 社会福祉</p> <p>1 社会福祉の概要</p> <p>2 児童家庭福祉</p> <p>3 障がい者福祉</p> <p>4 高齢者福祉</p> <p>第5章 高齢者と障がい者の体と心</p> <p>1 高齢者の身体的・心理的特性</p> <p>2 障がい者の身体的・心理的特性</p> <p>第6章 高齢者・障がい者の介助</p> <p>1 理容・美容における介助の考え方</p> <p>2 高齢者に対する介助</p> <p>3 障害のある方に対する介助</p> <p>第7章 高齢者・障がい者に対する理容・美容の実践</p> <p>1 店内における実践</p> <p>第8章 理容師・美容師と社会貢献活動</p> <p>1 社会貢献活動</p> <p>2 理容・美容技術を用いた社会貢献活動の実践</p> <p>参考資料</p> <p>実践レポートとメッセージ</p> <p>1 ビジネスとしての福祉理容・美容</p> <p>2 コミュニケーションの壁を乗り越えて</p> <p>理容・美容手話メモ</p>
<p>教科書 教材</p>	<p>教科書 社会福祉（公益社団法人日本理容美容教育センター発行）</p>
<p>成績評価 方法・基準</p>	<p>1. 出席時数が、本校規定時数の5分の4以上であること</p> <p>2. 講義レポート提出</p> <p>3. 学年末の筆記試験が、60点以上であること（100点法）</p>

教科科目	ビジネスマナー	履修区分	必修	授業形態	講義
履修学年	第1学年	授業時数	30時間	単位数	1単位
担当教員	佐藤 敏雄、安田 智樹、小野 繕永				
授業概要	美容師養成施設選択課目、一般教養課目群				
授業目的	ビジネスマナーは、あらゆる職業において基礎となるものであることから、社会人としての基本的な一般常識として、美容の現場でお客さまを大切に思う気持ちを伝えるため、競争の激化した美容業の世界で信用を得られる美容師となるために身に付けることを目的とする。				
到達目標	<p>①ビジネスマナーの基本となる考え方、仕事に対する基本姿勢、職場に求められる態度、チームワークに必要な人間関係づくりを学び、社会人としての心がけや気を付けるべきことを身に付ける。</p> <p>②あいさつやおじぎのしかた、基本的な接客用語、立ち座りの姿勢、ものの受け渡し方など、お客さまの前に立って仕事をするにあたり気を付けたい正しい動作を身に付ける。</p> <p>③報告、連絡、相談、クレーム対応、プレゼンテーションなど、仕事でのコミュニケーションの基本を学び、お客さまや目上の方に対する言葉づかいを身に付ける。</p> <p>④サービス業における接遇の大切さを美容のさまざまな接客場面を想定して学び、お客さまの状況に合わせて気配り・目配りをし、快適に過ごしていただく心得を習得する。</p> <p>⑤会社や店を代表して行う電話対応に求められる基本的な心得、ふさわしい言葉の選び方、相手や状況に応じた会話例を身に付ける。</p> <p>⑥訪問、座席の位置、名刺交換、冠婚葬祭など、ビジネス全般において知っておきたいマナーを身に付ける。</p>				
授業計画					
第2学期	<p>オリエンテーション</p> <p>第1章 社会人としての基本</p> <p>1 職場での基本モラル</p> <p>2 職場での身だしなみ</p> <p>3 職場での人間関係</p> <p>第2章 正しい動作</p> <p>1 あいさつ</p> <p>2 基本動作（立ち姿勢、歩き方、おじぎなど）</p> <p>3 実践トレーニング</p> <p>第3章 言葉づかい</p> <p>1 話し方、聞き方</p> <p>2 敬語</p> <p>3 人の呼び方</p> <p>4 実践トレーニング</p> <p>第4章 接客の基礎</p> <p>1 接遇</p>				

	<ul style="list-style-type: none"> 2 接客対応 3 実践トレーニング <p>第5章 電話対応の基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 電話の受け方 2 電話のかけ方 3 実践トレーニング <p>第6章 一般常識、各種マナー</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 名刺交換、紹介、訪問、座席の順番 2 冠婚葬祭 <p>参考資料 履歴書の書き方</p> <p>マナー講習 ※レポート提出</p>
教科書 教材	教科書 ビジネスマナー（公益社団法人日本理容美容教育センター発行）
成績評価 方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> 1. 出席時数が、本校規定時数の5分の4以上であること 2. 各学期末の筆記試験が、60点以上であること（100点法）

教科科目	キャリアデザイン	履修区分	必修	授業形態	講義
履修学年	第2学年	授業時数	30時間	単位数	1単位
担当教員	小田嶋 美佐子				
授業概要	美容師養成施設選択課目、一般教養課目群				
授業目的	<p>キャリアデザインは自分の将来像を明確にするために必要なプロセスの一つで「仕事で実現したいことを主体的に設計する」ことが主な概念となります。</p> <p>美容業に携わるビジネスパーソンとして1年間の目標はもちろん、3年後、5年後、さらには10年後のキャリア形成まで、積極的に行うことが必要です。</p> <p>他人任せに自分の将来プランを立てるのではなく、「自分自身が自らの手で主体的にキャリアをデザインしていく」ことを目的とします。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 職業生活で自分を活かすことへの認識を高める 2 自分の経験やスキル、性格、ライフスタイルなどを客観的に分析する 3 実際の労働市場の状況を把握する 4 自分の職業人生を自ら主体的に構想・設計する 				
授業計画					
	<p>オリエンテーション</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 キャリアデザイン <ol style="list-style-type: none"> (1) キャリアシート作成 自分の経験やスキル、性格、ライフスタイルなどを考慮してキャリアシートを作成する。 (2) 業界分析 企業等ガイダンス（校内ガイダンス、学外ガイダンス）等を通じて企業等が求める人材像や能力、資格等を把握する。 2 キャリア形成の実践トレーニング 在学中に自分のキャリアデザインに沿った「自己実現」を可能にするためのプランを考察（資格取得、知識・技術の習得、人間力向上など）。 実践状況について振り返るトレーニングを行う。 <p>キャリア講習 ※レポート提出</p>				
教科書 教材	教科書 ビジネスマナー（公益社団法人日本理容美容教育センター発行）				
成績評価 方法・基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席時数が、本校規定時数の5分の4以上であること 2. 課題・レポート提出・授業におけるプランの実践状況により総合的に評価する。評価は100点法により60点以上を合格とする。 				

教科科目	パーソナルカラー	履修区分	必修	授業形態	講義
履修学年	第1学年	授業時数	30時間	単位数	1単位
担当教員	野口 典子				
授業概要	美容師養成施設選択課目、専門教育課目群				
授業目的	私たちの社会生活に深く関わっているパーソナルカラーについて、実践的な「色彩効果」を中心に学び、美容分野の幅広い仕事に活用できることを目的とする。				
到達目標	① JPCA 色彩技能パーソナルカラー検定 モジュール1 (初級) 合格程度 ② JPCA 色彩技能パーソナルカラー検定 モジュール2 (中級) 合格程度				
授業計画					
	<p>モジュール1 パーソナルカラーとは 色の効果体験①</p> <p>パーソナルカラーとは 色の効果体験②</p> <p>色の属性 色相について</p> <p>色の属性 明度について</p> <p>色の属性 彩度について</p> <p>色の属性 清色・濁色について</p> <p>色の属性と顔色の見え方①</p> <p>色の属性と顔色の見え方②</p> <p>コーディネート 配色について①</p> <p>配色②</p> <p>配色技法について①</p> <p>配色技法について②</p> <p>色を見るための条件①</p> <p>色を見るための条件②</p> <p>色の心理効果①</p> <p>色の心理効果②</p> <p>フォーシーズン分類について</p> <p>フォーシーズン分類活用法</p> <p>まとめ①</p> <p>模擬テスト</p> <p>モジュール2 色の属性と顔色の見え方演習 (色相) ①</p> <p>色の属性と顔色の見え方演習 (明度) ②</p> <p>色の属性と顔色の見え方演習 (彩度) ③</p> <p>色の属性と顔色の見え方演習 (清色・濁色) ④</p> <p>表色系マンセル</p> <p>PCCS とマンセル演習①</p> <p>PCCS とマンセル演習②</p> <p>色名について</p> <p>配色技法 アナロジーとコントラスト</p>				

	<p>仕事に活用する配色</p> <p>配色演習</p> <p>色彩調和論</p> <p>色の見える仕組みとパーソナルカラー①</p> <p>色の見える仕組みとパーソナルカラー②</p> <p>フォーシーズン分類仕事での活用①</p> <p>フォーシーズンアレンジ①</p> <p>フォーシーズンアレンジ②</p> <p>まとめ</p> <p>模擬テスト</p> <p>模擬テスト解答解説</p> <p>毎年 12 月上旬</p> <p>※色彩技能パーソナルカラー検定 モジュール 1 受験</p> <p>※色彩技能パーソナルカラー検定 モジュール 2 受験 (モジュール 1 と併願可)</p>
教科書 教材	<p>色彩技能パーソナルカラー検定公式テキスト モジュール 1 (初級)</p> <p>色彩技能パーソナルカラー検定公式テキスト モジュール 2 (中級)</p> <p>モジュール 1 配色ワークブック</p> <p>モジュール 2 配色ワークブック</p> <p>PCCS 新配色カード 199b</p>
成績評価 方法・基準	<p>1. 出席時数が、本校規定時数の5分の4以上24時間以上であること</p> <p>2. 各学期末の筆記試験が、60点以上であること (100点法)</p>

教科科目	イラストレーション	履修区分	必修	授業形態	講義
履修学年	第1学年	授業時数	30時間	単位数	1単位
担当教員	筒井 義明				
授業概要	美容師養成施設選択課目、一般教養課目群				
授業目的	<p>造形的な創作に携わっている職業は、その創作においてデザイン画を描くということが必要不可欠な条件となります。自分のイメージしたデザインを相手に伝える場合、言葉だけでなくデザイン画をプラスしたほうがより正確に伝えることができます。さらには、思いついたアイデアをイラストによってファイリングすることで、創作に広がりをもたせることもできます。美容師は、髪型（ヘアスタイル）の決定から仕上げまでのすべてをこなす特殊な職業です。お客さまに満足していただくためには、美容の技術的トレーニングも大切ですが、ヘアデザインについての創作的な技術を身につけておくことも重要になります。また、ヘアスタイル画を描きつづけることで顔のバランスやプロポーションに対する理解を深められ、さらにはそれらを正確に観察する力も養われていきます。</p>				
到達目標	<p>ヘアイラストレーション</p> <p>①基礎となる鉛筆の削り方、顔のプロポーションを学び、目、鼻、口などの顔の部分、顔全体、角度の変化による描き方とヘアの描き方ができる。</p> <p>②顔の部分練習の応用で細かな表現を学び、眉や目などの顔の部分の配置やヘアスタイルによるイメージの違いを身につけ、同じ顔でイメージを変える技術を身につける。</p> <p>ファッションイラストレーション</p> <p>体全体や着衣、また、靴、バッグ、ベルト、アクセサリなどのグッズの描き方を練習して描けるようになる。</p>				
授業計画					
第1学年 第1学期	<p>オリエンテーション</p> <p>トレーストレーニング（写して描く）を多用し、描くことが苦手な方にも気軽に練習できるようにします。</p> <p>スタイル画は決して「うまく描かなければならない」というものではありません。子どもころの落書き感覚を思い出して、まず描いてみてください。楽しみながらデザインの技術を身につけていきましょう。</p> <p>Hair Illustration</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 鉛筆の削り方 2. 顔のプロポーション 3. 顔の部分練習 基礎編 <ol style="list-style-type: none"> ①眼の描き方 ②鼻の描き方 ③口の描き方 4. 顔の描き方 5. 角度の変化による顔形 6. ヘアの描き方 7. いろいろな描き方 				

	<p>8. 顔の部分練習 応用編 ①目の種類 ②眉 ③鼻 ④口</p> <p>9. 配置によるイメージの違い</p> <p>10. ヘアスタイルによるイメージの違い</p> <p>11. 同じ顔でイメージを変える</p> <p>Fashion Illustration</p> <p>1. 基礎プロポーション</p> <p>2. プロポーションの理解</p> <p>3. ファッションイラストの部分練習</p> <p>4. ファッションイラストの描き方</p> <p>5. ファッショングッズの描き方</p> <p>6. ファイリング</p>
教科書 教材	鉛筆やトレース紙などによる教材のほか、必要に応じてアクセサリなどのグッズを使用 参考テキスト ヘアスタイル画によるトータルファッション(公益社団法人日本理容美容 教育センター発行)
成績評価 方法・基準	<p>1. 出席時数が、本校規定時数の5分の4以上であること</p> <p>2. 課題作品の評価が、60点以上であること(100点法)</p>

教科科目	エステティック技術	履修区分	必修	授業形態	実習
履修学年	第1学年	授業時数	60時間	単位数	2単位
担当教員	佐藤 理恵（担当課目の実務経験を有する）				
授業概要	美容師養成施設選択課目、専門教育課目群				
授業目的	美容師養成施設必修課目で習得する基礎的な専門知識や技術とあわせて、エステティック技術についての歴史、現状、目的、種類、特徴、技術上の注意など、より高度なエステティックについて学ぶ。				
到達目標	①化粧品や機器、手などさまざまな方法を使ってマッサージやパック等を行うことができる。 ②エステティックの知識及び技術について、日本エステティック協会認定エステティシヤンの資格合格程度を目標とする。				
授業計画					
第1学年 第1学期 30時間	認定エステティシヤン理論編 1. エステティックとは 2. ホメオスタシスとストレス 3. 身体のしくみと働きⅠ 4. 身体のしくみと働きⅡ 5. 皮膚のしくみと働きⅠ 6. 皮膚のしくみと働きⅡ 7. エステティックカウンセリングとは 8. 化粧品の種類と働き 9. 栄養の知識 10. エステティックにおける衛生と消毒 11. エステティックの基礎知識				
第1学年 第2学期 30時間	認定エステティシヤン技術編 12. ボディエステティックの基礎知識 13. フェイシャルエステティックの基礎知識 エステティック 1. エステティック備品類 2. フェイシャル及びデコルテマッサージの一例 3. 背中のマッサージ 4. フェイシャルパックとマスク				
教科書 教材	教科書 認定F E 認定B E 理論と技術（一般社団法人日本エステティック協会発行） 教科書 美容技術理論2（公益社団法人日本理容美容教育センター発行）				
成績評価 方法・基準	1. 出席時数が、本校規定時数の5分の4以上であること 2. 学期末の筆記試験が、60点以上であること（100点法） 3. 学期末の技術試験が、60点以上であること（100点法）				

教科科目	美容カウンセリング	履修区分	必修	授業形態	講義
履修学年	第2学年	授業時数	30時間	単位数	1単位
担当教員	金子 正樹（担当課目の実務経験を有する）				
授業概要	美容師養成施設選択課目、専門教育課目群				
授業目的	美容サービスの一環として行うカウンセリングの意義、目的、内容、実施上の留意点などについて学び、美容師の業務を全うするためには、正確な技術を提供するとともに、顧客の要望に応じた適切なカウンセリングの実施が重要であることを認識する。				
到達目標	<p>①現場で構えず自然体でカウンセリングやコンサルティングができるように、しっかりとした知識と技法を身につける。また、自己理解を深め、自分の精神衛生管理もできるようになること。</p> <p>②お客さまはサロンに美を求めて来店する。その要求に応え、事故のない施術を行うためにコンサルティングに臨む際の基本的な心構えから、実際のパーマ施術、ヘアカラー施術を中心としてコンサルティング担当者及び施術者が知っておくべき基本的な事項について理解する。</p>				
授業計画					
第1学期	<p>第1章 カウンセリング概論</p> <p>1 カウンセリングとは</p> <p>2 カウンセリングの手法</p> <p>(1) カウンセリング内容をクライアントの欲求で分ける</p> <p>(2) コンサルティングとは</p> <p>(3) コーチングとは</p> <p>(4) 心理カウンセリングとは</p> <p>3 カウンセリングに必要な基礎知識</p> <p>(1) 個人情報の保護</p> <p>(2) 心の仕組みと働き</p> <p>(3) コミュニケーションとストレスの関係</p> <p>(4) カウンセリングのプロセス</p> <p>(5) 3つの相談技法</p> <p>4 カウンセリングの訓練</p> <p>(1) ロールプレイによる傾聴訓練</p> <p>(2) エンカウンターグループ</p> <p>(3) スキルアップ訓練</p> <p>(4) 職場で起こるトラブル対応の訓練</p> <p>5 職場の精神衛生管理</p> <p>(1) 4つのメンタルヘルスケア</p> <p>(2) ストレス管理</p> <p>(3) ストレッサーとストレス反応</p> <p>(4) カウンセリングは重要な職場のシステム</p>				

第2学期	<p>第2章 毛髪・皮膚コンサルティング</p> <p>1 サロンでのコンサルティングの意義</p> <p>(1) サロンでのコンサルティングの必要性</p> <p>(2) コンサルティングを正しく行うために</p> <p>(3) コンサルティングを行う際の態度</p> <p>(4) サロンの繁栄のためのコンサルティング</p> <p>2 毛髪診断</p> <p>(1) 機器診断と触診</p> <p>(2) 毛髪（髪質）について</p> <p>3 パーマ施術前のコンサルティング</p> <p>(1) 希望の確認</p> <p>(2) 断毛と脱毛</p> <p>(3) 頭皮の確認</p> <p>(4) 薬液の選定と施術料の提示</p> <p>4 ヘアカラー施術前のコンサルティング</p> <p>(1) ヘアカラー製品の選定</p> <p>(2) 酸化染毛剤（ヘアカラー）のパッチテスト</p> <p>(3) パッチテストで異常を生じた際の対応と染毛料の使用</p> <p>(4) 染め上がりの色と退色</p> <p>(5) 染毛剤（医薬部外品）の使用上の注意について</p> <p>5 その他の施術前のコンサルティング</p> <p>(1) シャンプー</p> <p>(2) ヘアトリートメント</p> <p>(3) 施術後のヘアデザイン</p> <p>(4) ヘアカット</p> <p>(5) ヘアスタイリング剤</p> <p>(6) ヘンナ（ヘナ）製品</p> <p>(7) 化粧品の使用上の注意と使用方法</p> <p>6 コンサルティングのその他の知識</p> <p>(1) 毛髪の傷みの原因について</p> <p>(2) 化粧品、医薬部外品についての正しい知識</p>
教科書 教材	教科書 理容・美容カウンセリング（公益社団法人日本理容美容教育センター発行）
成績評価 方法・基準	<p>1. 出席時数が、本校規定時数の5分の4以上であること</p> <p>2. 章または項ごとに実施する確認テストが、60点以上であること（100点法）</p>

教科科目	メイクアップ	履修区分	必修	授業形態	実習
履修学年	第1学年	授業時数	60時間	単位数	2単位
担当教員	佐藤 理恵（担当課目の実務経験を有する）				
授業概要	美容師養成施設選択課目、専門教育課目群				
授業目的	メイクアップアーティストの活躍分野はここ数年、急速な広がりを見せていることから、ベーシックメイクアップからステップアップした応用テクニックを学んでいく。				
到達目標	<p>①メイクアップアーティストとしての土台となる基本の理論、技術を基に、一般の女性（同世代）に対するナチュラルメイク（修正、印象の変化を含まない）ができるレベル（日本メイクアップ連盟メイクアップ検定3級合格程度）</p> <p>②基本理論、技術を基とした応用技術で、一般の女性（同世代）からの要望（印象の変化・部分修正）を含むナチュラルメイクができるレベル（日本メイクアップ連盟メイクアップ検定2級合格程度）</p>				
授業計画					
第1学年 第2学期	<p>手技及び美容器具の操作ならびに化粧品等の使用による実習で技術を習得する。実習モデルは、学習と習熟の状況を十分に確認したうえで学生同士の相互モデルで行う。</p> <p>メイクアップのプロをめざす方には、国内はもちろん、ぜひとも世界へも目を向け、流行や技術や、時代の動向に敏感であってください。</p> <p>メイクアップは、ともすれば感性や感覚に走りがちですが、どんな人にもどんな目的にも対応できるようになるためには、多面的知識と理論が大切です。</p> <p>1 スキンケア 道具と基本テクニック クレンジング トーンング プロテクティング</p> <p>2 ベースメイクアップ ファンデーションを塗る ファンデーションの塗り分け（多色塗り） 立体感を強調するメイクアップ（ハイライト、ローライト） 陰やくすみを消すベースメイクアップ ベースメイクアップのアクセントカラー パウダリング</p> <p>3 アイメイクアップ アイラインのテクニック アイシャドーのテクニック 目の表情を変えて見せるテクニック 立体感を際立たせるテクニック アイラッシュカールのテクニック マスカラのテクニック</p>				

	<p>つけまつ毛のテクニック アイメイクアップ・バリエーション</p> <p>4 アイブロウメイクアップ 眉の整え方 眉の描き方 3タイプの眉の描き方</p> <p>5 リップメイクアップ リップの描き方 リップメイクアップ・バリエーション</p> <p>6 ブラッシュオンメイクアップ</p> <p>7 ひとりの顔から5つの表情を引き出す 5つの表情</p> <p>8 特別に輝きたい日のために 3つのシーンのメイクアップ</p>
教科書 教材	<p>教科書 トニータナカのメイクアップメソッド（株式会社女性モード社発行）</p> <p>教科書 美容技術理論2（公益社団法人日本理容美容教育センター発行）</p>
成績評価 方法・基準	<p>1. 出席時数が、本校規定時数の5分の4以上であること</p> <p>2. 各学期末の筆記試験が、60点以上であること（100点法）</p>

教科科目	まつ毛エクステンション	履修区分	必修	授業形態	実習
履修学年	第1学年	授業時数	30時間	単位数	1単位
担当教員	大高 美怜（担当課目の実務経験を有する）				
授業概要	美容師養成施設選択課目、専門教育課目群				
授業目的	<p>①まつ毛エクステンションについての基本的事項は美容技術理論で学ぶが、より高度なまつ毛エクステンションについて目的、種類、特徴、技術上の注意について学ぶ。</p> <p>②美容実習で行うこととしている基礎的なまつ毛エクステンションに対し、より高度なまつ毛エクステンションについて、使用される主な薬剤や機器の使用方法や使用上の注意を身に付ける。</p>				
到達目標	<p>①「太さ・長さ・カール」といった数種類の人工のまつ毛を組み合わせて使用し、さまざまな好みの目もとを演出する。</p> <p>②お客さまの目や目もとの施術であることを十分に理解し、安全・安心を第一とする技術者としての自覚や心構え、配慮を身につける。</p> <p>③衛生管理はもちろん、お客さまへのカウンセリング、健康被害のリスクなどの情報提供、眼及びまつ毛の構造や病気とトラブル、皮膚とアレルギーに関する知識、用具などを取り扱ううえでの注意事項を理解する。</p> <p>④基本装着から応用まで、目の形や、地まつ毛の状態に合ったエクステンションの提案ができる。</p>				
授業計画					
第1学年 第2学期	<p>オリエンテーション</p> <p>まつ毛エクステンション練習用ウィッグ（マネキン）などを用いて実習を行う。習熟度に応じてモデルにエクステンションを装着してトレーニングを重ね、デザインテクニックを身につける。必要に応じてテキストを使用して講義を行う。</p> <p>お客さまにエクステンションを装着するには、相当な習熟が必要です。学生（初心者）は、安易な気持ちでモデル（人）を使って練習するのは、大変危険が伴うので、絶対に行わないようにしてください。</p> <p>序章 まつ毛エクステンションとは</p> <p>第1章 まつ毛エクステンションの用具</p> <p>①備品 ②道具 ③用剤 ④材料</p> <p>第2章 衛生管理</p> <p>①病原微生物 ②消毒 ③芽胞 ④滅菌 ⑤消毒法の種類 ⑥消毒の手順 ⑦施術前の手指消毒 ⑧器具類の消毒方法</p> <p>第3章 保健</p> <p>①眼に関する知識 ②皮膚に関する知識 ③まつ毛に関する知識</p>				

	<p>第4章 カウンセリング ①はじめに ②カウンセリングの留意点 ③その他</p> <p>第5章 まつ毛エクステンション技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 まつ毛エクステンションにおける注意 2 エクステンションの装着の前に 3 エクステンションの装着 4 装着したエクステンションのリムービング 5 まつ毛エクステンションのトレーニング 6 まつ毛エクステンションのデザイン
教科書 教材	教科書 まつ毛エクステンション（公益社団法人日本理容美容教育センター発行） まつ毛エクステンション練習用ウィッグ（マネキン）等の専門用具
成績評価 方法・基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席時数が、本校規定時数の5分の4以上であること 2. 各学期末の筆記試験が、60点以上であること（100点法）

教科科目	サロンネイル	履修区分	必修	授業形態	実習
履修学年	第1学年	授業時数	60時間	単位数	2単位
担当教員	佐藤 理恵（担当課目の実務経験を有する）				
授業概要	美容師養成施設選択課目、専門教育課目群				
授業目的	ネイル学の基本としてネイルケアの知識を学び、学術的な裏づけをふまえた安全で適切な技術を提供する。さらに、ネイルサロンの主力メニューとなったジェルネイルについて、爪やジェルの成分に関する正しい知識を修得し、お客さまに信頼され、常に満足して頂けるネイリストをめざす。				
到達目標	①ネイルケア、ネイルアートに関する基本的な技術及び知識の修得（JNECネイリスト技能検定3級合格程度） ②サロンワークでジェルネイルを施術するために必要な知識と技術の修得（JNAジェルネイル技能検定初級合格程度）				
授業計画					
第1学年 第1学期	<p>手技及びネイル用具の操作ならびに消毒液等の使用による実習で技術を習得する。実習モデルは、ネイル練習用マネキンなどを用いるほか、学習と習熟の状況を十分に確認したうえで学生同士の相互モデルで行う。必要に応じてテキストを使用して講義を行う。</p> <p>テクニカルシステムベーシック</p> <p>第1章 基礎理論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ネイルの歴史 2 ネイル技術体系 3 爪の構造と働き 4 ネイルのための皮膚科学 5 ネイルのための生理解剖学Ⅰ 6 ネイルのための生理解剖学Ⅱ 7 爪や皮膚の病気とトラブル 8 消毒法 9 トリートメント理論 10 化粧品学（ネイル用化粧品） 11 色彩理論 12 プロフェッショナリズム 13 ネイルカウンセリング 14 ネイルサロン環境 15 衛生基準と関連法規 <p>第2章 ネイルケア</p> <p>基本的なテーブルセッティング ネイルケアの用具・用材と使用目的 その他の道具類と使用目的／カラーリング用品と使用目的 ネイルケアのステップ 手指消毒 ポリッシュオフ ファイリング クリーンナップ カラーリング カットスタ</p>				

	<p>イル別ファイリング カットスタイル1 スクエア カットスタイル2 スクエアオフ カットスタイル3 ラウンド カットスタイル4 オーバル カットスタイル5 ポイント カットスタイルのレッスン ハンドトリートメント</p> <p>第3章 リペア&イクステンション リペア&イクステンションの用具・用材と使用目的 ナチュラルネイルのリペア (グルーオンテクニック) (ラップテクニック) A グルー&フィラー (シルク) (ラップテクニック) B レジン (グラスファイバー) イクステンション (チップ&ラップ) Step1 チップアプリケーション Step2 A グルー&フィラー (シルク) B レジン (グラスファイバー)</p> <p>第4章 ネイルアート ネイルアートに使用する用具・用材と使用目的 ネイルアートの基礎知識 水玉 アーガイルチェック 花 (バラ) 花 (ドロップ型の花びら) 花 (リーフ型の花びら) レース 逆フレンチ シェブロン (シボレー) ボーダー チェック ブロッキング</p> <p>第5章 プロテクニックコレクション ナチュラルフレンチルック ペイントアート エアブラシアート フレンチスタイル アクリルデザインスカルプチュア ミックスメディアアート ジェルアート ジェルデザインスカルプチュア</p>
<p>第1学年 第1学期</p>	<p>テクニカルシステム～ジェルネイル～ 第1章 ジェルネイル基礎理論 LESSON1.ジェルネイル概論 LESSON2.ジェルネイル材料の基礎理論 LESSON3.ジェルネイル技術体系 LESSON4.爪の構造と働き LESSON5.ジェルネイルの用具用材 LESSON6.ジェルネイル用具の衛生管理 LESSON7.爪の病気 LESSON8.ジェルネイルの安全な施術とトラブル防止 ADVICE ジェルネイルの施術で生じやすいトラブルの要因と対策</p> <p>第2章 ネイル基本技術 LESSON1.ネイルケア LESSON2.ポリッシュカラーリング LESSON3.ジェルカラーリング</p> <p>第3章 ジェルイクステンション技術 LESSON1.ジェル クリアスカルプチュア A フリーエッジが2～3mm LESSON2.ジェル クリアスカルプチュア B フリーエッジが1cm程度 LESSON3.ジェル クリアスカルプチュア C オーバルに仕上げる場合 LESSON4.ジェル チップオーバーレイ</p> <p>第4章 ジェルオフ技術 LESSON1.ソークオフジェルのオフ</p>

	<p>LESSON2.ハードジェルのオフ</p> <p>LESSON3.ネイルマシンの基本的な使い方</p> <p>第5章 ジェルアート技術</p> <p>LESSON1.グラデーション LESSON2.フレンチカラーリング</p> <p>LESSON3.ピーコック LESSON4.マーブル LESSON5.フラワー</p> <p>LESSON6.グリッターグラデーション LESSON7.モザイクアート</p> <p>第6章 ジェルネイル用語集</p> <p>第7章 JNAジェルネイル技能検定試験について</p>
教科書 教材	<p>テキスト『JNAテクニカルシステム ベーシック』NPO法人日本ネイリスト協会</p> <p>テキスト『JNAテクニカルシステム～ジェルネイル～』NPO法人日本ネイリスト協会</p> <p>教材教具 ネイルケア用具・用材 ジェルネイル用具・用材 ライト カラーリング用品 ハンドマネキン等</p>
成績評価 方法・基準	<p>1. 出席時数が、本校規定時数の5分の4以上であること</p> <p>2. 各学期末の筆記試験が、60点以上であること（100点法）</p>

教科科目	福祉美容	履修区分	必修	授業形態	講義
履修学年	第2学年	授業時数	30時間	単位数	1単位
担当教員	坂谷 優美（担当科目の実務経験を有する）				
授業概要	美容師養成施設選択科目、専門教育科目群				
授業目的	超高齢社会における美容では、介護が必要な人や障がいを抱える人など、自分自身で美容所まで行くことが困難な方への対応が重要となります。美容師として介護施設や在宅ケアが必要な人へ出向き、美容のサービスを提供できる福祉美容の業務は、出張先で美容所と同じようにヘアカット・シャンプー・ヘアカラー・パーマなどを行いますが、美容の専門知識・技術に加え、福祉・医療・介護の分野も学ぶ必要があります。歩くことができる方から寝たきりの方まで、それぞれのお客様の状態に応じた施術を行うことができるように、福祉美容・訪問美容の基礎を身につけることを目的とします。				
到達目標	①超高齢社会における美容師の使命を自ら考えることができる。 ②要介護の人や障がいのある人への専門的な美容サービスを理解し、福祉美容の基礎を身につける。				
授業計画					
	高齢者や障がい者などの介護・介助の状態に応じた状況を想定した基本的な美容サービスを施術者とお客様の両面から体験する。 必要に応じて、各種の参考資料、映像などの視聴覚教材を用いたり、福祉施設、美容所への見学などを行ったりして学習効果を高める。				
1～2	オリエンテーション 訪問美容とは				
3～4	社会貢献活動 美容技術を用いた社会貢献活動とは				
5～6	高齢者のからだところ				
7～8	障がい者のからだところ				
9～10	事例検討 ※レポート、小テストあり				
11～12	訪問美容における技術対応				
13～14	様々なシャンプー法				
15～16	事例検討 ※レポート、小テストあり				
17～18	訪問美容師としての働き方				
19～20	もしバナゲーム「もしも余命半年と言われたら？」 ディスカッション ※レポート提出あり				
21	香りの効果と活用（精油を使った実習）			メイクネイル室使用	
22	介護に役立つハンドケア（座学）			メイクネイル室使用	
23～24	介護に役立つハンドケア（実技） ※レポート提出あり			メイクネイル室使用	
25～26	介護に役立つフットケア（座学）			メイクネイル室使用	
27～28	介護に役立つフットケア（実技） ※レポート提出あり			メイクネイル室使用	

29～30	認知症サポーター養成講座
教科書 教材	教科書 社会福祉（公益社団法人日本理容美容教育センター発行）
成績評価 方法・基準	1. 出席時数が、本校規定時数の5分の4以上であること 2. レポート内容と小テストが60点以上であること（100点法）

教科科目	美容師国家試験対策	履修区分	必修	授業形態	講義
履修学年	第2学年	授業時数	60時間	単位数	2単位
担当教員	小田嶋、佐藤、大高、岩佐、金子				
授業概要	美容師養成施設選択科目、専門教育科目群				
授業目的	美容師国家試験の筆記試験科目が従来よりも2科目増えて5科目から7科目に変更されたことから、新たな科目を含めた受験対策を徹底し、美容師国家試験の筆記試験合格を確実にする。				
到達目標	①美容師国家試験の筆記試験出題科目である「関係法規・制度」、「衛生管理」、「保健」、「化粧品化学」、「美容技術理論」、について、模擬試験に合格できる知識を習得する。 ②美容師国家試験の新たな筆記試験出題科目である「文化論」、「運営管理」について、模擬試験に合格できる知識を習得する。				
授業計画					
第2学年 第2学期	美容師国家試験における筆記試験の傾向と対策について 模擬試験① 総合講義 模擬試験② 総合講義 模擬試験③ 総合講義 模擬試験④ 総合講義 模擬試験⑤ 総合講義 模擬試験⑥ 総合講義 模擬試験⑦ 総合講義 模擬試験⑧ 総合講義 模擬試験⑨ 総合講義 模擬試験⑩ 総合講義 模擬試験⑪ 総合講義 模擬試験⑫				
教科書 教材	教科書 関係法規・制度（公益社団法人日本理容美容教育センター発行） 教科書 衛生管理（公益社団法人日本理容美容教育センター発行）				

	教科書 保健（公益社団法人日本理容美容教育センター発行） 教科書 化粧品化学（公益社団法人日本理容美容教育センター発行） 教科書 美容技術理論1（公益社団法人日本理容美容教育センター発行） 教科書 美容技術理論2（公益社団法人日本理容美容教育センター発行） 教科書 文化論（公益社団法人日本理容美容教育センター発行） 教科書 運営管理（公益社団法人日本理容美容教育センター発行）
成績評価 方法・基準	1. 出席時数が、本校規定時数の5分の4以上であること 2. 各学期末の筆記試験が、60点以上であること（100点法）

教科科目	美容総合技術	履修区分	必修	授業形態	実習
履修学年	第2学年	授業時数	60時間	単位数	2単位
担当教員	小田嶋 美佐子（担当課目の実務経験を有する） 佐藤 理恵（担当課目の実務経験を有する） 大高 美怜（担当課目の実務経験を有する） 岩佐 徳子（担当課目の実務経験を有する）				
授業概要	美容師養成施設選択科目、専門教育科目群				
授業目的	美容業界における最新の技術、知識、取り組み、動向などを学び、美容師としての実践能力を養う。 必修科目において習得した基本技術を基に、最新の美容師国家試験実技課題合格程度の技術を身に付ける。				
到達目標	①必修科目において習得した基本技術を基に、さらに発展させた高度な技術や、美容デザインの最新の動向について理解する。 ②美容師国家試験の実技試験課題である「カットティング」、「ワインディング」、「オールウェーブセッティング」について、模擬試験に合格できる技術を習得する。				
授業計画					
	美容師国家試験実技課題実習 「カットティング」、「ワインディング」、「オールウェーブセッティング」について、シミュレーション形式で模擬試験を行う。				
教科書 教材	美容師実技試験課題「技術の解説」（公益財団法人理容師美容師試験研修センター発行）				
成績評価 方法・基準	出席時数が、本校規定時数の5分の4以上であること				